



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

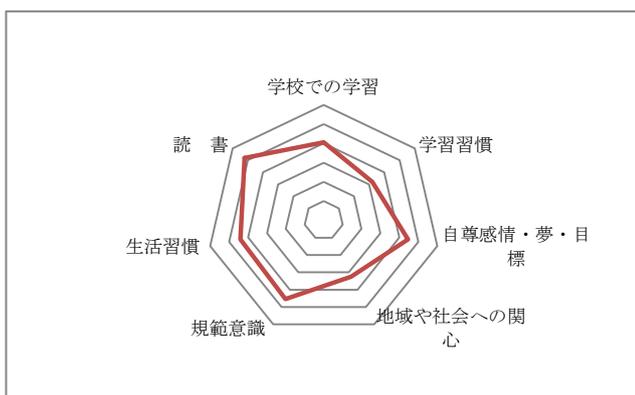
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	どの分野においても基礎基本の定着が課題である。特に書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	下回っている
国語B	国語に関する知識を応用・活用することに課題がある。文章を読み取り、根拠を明確にして、必要に応じて自分の考えを書く問題について課題がある。	下回っている
数学A	どの分野においても基礎基本の定着が課題である。関数の問題に関しては無回答率が高かった。	下回っている
数学B	どの分野においても平均を下回っている。難しい問題に関しては、無回答率が非常に高かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・読書好きの生徒の割合は全国平均よりも高い。また家庭で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合も増加している。授業の中でめあて・まとめが示されていたという生徒の割合も増加した。しかし話し合い活動をよく行っていたと答えた生徒の割合は減少しており、各教科で話し合い活動の充実を努めていかなければならない。
- ・自分にはよいところがあると答えた生徒の割合が低く、自尊感情が低いところが課題である。学校行事等の取り組みを通して、一人ひとりのよいところを認め合えるように指導することが必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・昨年度より実施している基礎学力向上週間を、本年度は毎月実施している。定期考査とリンクさせ、繰り返し学習することにより、基礎的な学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の習慣が学習意欲に繋がることを踏まえ、週末課題や1日1ページノートの取組の充実を図る。